

Catch the WAVES!

新潟県立佐渡中等教育学校
学校だより 令和5年度4月号①
HP: <http://www.sado-ss.nein.ed.jp>

令和5年度がスタートしました！

令和5年度が始まりました。新型コロナウイルス感染症対策が緩和され、新任式・始業式・対面式は、全校生徒が集まり、実施されました。全ての生徒にとって、新しい1年が始まります。明るく全力で様々なことに取り組んでほしいと思います。

4月6日(木)始業式 校長講話

皆さん、おはようございます。桜の花が満開となり、春本番、新学期スタートです。冬を乗り越え、草木が勢いを増すこの時期は気持ちか新しくなり、新入生でなくても何か新しいことを始めたいという意欲がわいてきます。

3月末から短い春休みでしたが、リフレッシュできましたか。3月25日の「さどリレーマラソン」ではフルの部で佐渡中等陸上部が優勝しました。参加した皆さんおめでとう。よく頑張りました。今月23日の「佐渡トキマラソン」には何人かの先生方も参加予定で、頑張りに期待したいです。また、3月28日から「新潟日報」で連載が始まった、江戸時代の佐渡金銀山を舞台にした小説「佐渡絢爛」では本校生徒をはじめ、島内の生徒たちが挿絵やタイトル文字の制作に携わり、工夫を凝らした素晴らしいセンスで紙面を彩っています。ぜひ、読んでみてください。

コロナ禍も今度こそ収束かという兆し、4月から学校ではマスクを外すことが基本となりマスクなしの皆さんの表情も見え嬉しい限りです。今年こそは全校生徒197人の名前を覚えもっと声かけや全員と面談をしてみたいと思っています。

いよいよアフターコロナ到来を願うばかりですが、今までの自分と違う自分でいたいと思う人にとって理想に向かってスタートする、あるいは生まれ変わる、非常によいチャンスです。

さて、年度初めの始業式にあたり、1冊の絵本を紹介します。タイトルは『教室は まちがうところだ』です。読んだことがある人や聞いたことがある人もいると思います。一部抜粋して読みますので、よく聞いてください。(赤字が読み上げた箇所)

「教室は まちがうところだ」 藤田晋治(まきたしんじ) 作、長谷川悦子 絵 (子どもの未来社)

教室はまちがうところだ みんなどしどし手を上げて
まちがった意見を言おうじゃないか まちがった答えを言おうじゃないか

まちがうことをおそれちゃいけない まちがったものをワラっちゃいけない
まちがった意見をまちがった答えを ああじゃあないか こうじゃあないかと
みんなで出しあい 言い合うなかで ほんとのものを見つけていくのだ
そうしてみんなで伸びていくのだ

いつも正しくまちがいのない 答えをしなくちゃならないと思って
そういうとこだと思っているから まちがうことがこわくてこわくて
手も上げないで小さくなって 黙りこくって時間がすぎる

しかたがないから先生だけが 勝手にしゃべって生徒はうわのそら
それじゃあちっとも伸びてはいけない

神様でさえまちがう世のなか ましてこれから人間になろうとしている
僕らがまちがったって なにかおかしい あたりまえじゃないか

うつむきうつむき そうっと上げた手 はじめて上げた手 先生がさした
どきりと胸が大きく鳴って どきどきと体が燃えて
立ったとたんに忘れてしまった なんだかほそほそしゃべったけれども
なにを言ったかちんぷんかんぷん 私はことりと座ってしまった

体がすうっと涼しくなって ああ言やあよかった こう言やあよかった
あとでいいこと浮かんでくるのに それでいいのだ いくどもいくども
おんなじことをくりかえすうちに それからだんだんどきりがやんで
言いたいことが言えてくるのだ



はじめからうまいこと言えるはずないんだ はじめから答えが当たるはずないんだ
なんどもなんども言ってるうちに まちがううちに
言いたいことの半分くらいは どうやらこうやら言えてくるのだ
そうしてたまには答えも当たる

まちがいだらけの僕らの教室 おそれちゃいけないワラっちゃいけない
安心して手を上げる 安心してまちがえや
まちがったってワラったり ばかにしたりおこったり
そんなものはおりゃあせん

まちがったって誰かがよ なおしてくれるし教えてくれる
困ったときには先生が ない知恵しほって教えるで
そんな教室作ろうやあ

おまえへんだと言われたって あんたちがうと言われたって
そう思うだからしょうがない だれかがかりにもワラったら
まちがうことがなぜわるい まちがってることわかればよ
人が言おうが言うまいが おらあ自分であらためる
わからなけりゃあそのかわり 誰が言おうとこすこうと
おらあ根性曲げねえだ
そんな教室作ろうやあ



どうでしたか。この本の中の「まちがうことをおそれちゃいけない」「まちがったことをわらっちゃいけない」そして「ああじゃないか、こうじゃないかと みんなで出しあい言いあうなかで ほんとのものを見つけていくのだ そうしてみんなで伸びていくのだ」このところが大切だと思います。

新クラスになりましたが、皆さんのクラスはどうですか？ 安心して間違えられる教室、安心して自分の考えを言える教室になりそうですか？

大事なのは、正しい間違っているかではなく、「自分で考えること」、そして「考えたことを伝えること」、「そこからみんなで考え合って本当のものを見つけていく」、ということです。

以前、授業見学した際、あるクラスの数学の授業中、自分で式を作ってそれを隣の席の友だちと説明し合う場面がありました。その時に何人かの人、友だちの式を見て、自分の書いたものを消して書き直していました。「もったいないなあ」と思いました。友だちと違っていても自分の書いたものはぜひ残しておきましょう。自分が考えたことをもっと大事にして、どうしてそう考えたかを伝え合い、考え合い消さずに赤ペンで添削するといいなあと感じました。正しい答えが一つだけポンと出るよりも、いろんな考えを出し合い、話し合うことが勉強になります。

私自身も冷や汗をかきながらたくさん間違い、失敗をしてきました。二度と同じ失敗はしないよう細心の注意を払い、メモや事前の準備等を心がけています。

私は、「間違いや失敗はチャンス」だと思っています。友だちと違う意見が出たときは、みんなで考え合うチャンスです。そして、自分が気付かなかったことに気が付くチャンスだと思います。違う意見に耳を傾けながら、受け入れようと努力し、調整しようとする。大人の世界でも同じだと考えます。

「試行錯誤」、「トライ&エラー」という言葉もあります。これは、間違いを恐れず、自分の考えを大切に、まずやってみる、言ってみる、試してみる。そして間違えたら、また考える、やり直してみる、みんなで考える、ということです。この、試行錯誤をどんどんしてほしい。だからこそ、授業が行われるクラスには、一生懸命考えた末の間違いや失敗が許され、みんなに温かく受け止めてもらえるそういう雰囲気がかかせません。

そうやって、成長していくために、安心して間違えられる、安心して自分の考えが言える、そんな教室・学校にしていきたいましよう。

間違いを恐れ自分の考えを出さないのではなく、「自分の考えを大切に」→「考え合い本当のものを見つけていく」生徒であってほしい。「自分らしさ」に気づき、こだわる」こと、まず、これを大切に。そして、「その自分らしさを発揮して、他者とのかかわりの中で時には違いをぶつけ合い衝突しながら、成長していく」、そんなプロセス(過程)を大切に教室・学校でありたいと考えます。

教室は「間違るところ」、「間違いながら答えを探していくところ」です。担任の先生方と一緒に、仲間と一緒に、そんなクラスをめざしてください。そして、授業中や、様々な場面で手を挙げようかどうか迷った時には、今日の本を思い出して、勇気を出してみてください。

新年度のスタートに当たり、『教室は まちがうところだ』という本を紹介しました。間違いや失敗を恐れることなくチャレンジし、仲間の失敗を指摘し合うのではなく、思いやりある言動でお互いを高め合い、大きく成長する輝かしい一年となるよう、心からエールを送ります。皆さんが学習と部活動の両立をめざし、頑張ることを期待しています。